

2025 年度第 2 回愛知県 D X 推進本部有識者会議 議事録（主な意見）

【石田敦郎委員 愛知県商工会連合会事務局長】

- ・ 小規模事業者は経営基盤がぜい弱であり、デジタル利活用に関する専門的知識を備えた人材がいないのが現実。デジタルツールの活用自体が目的化されてしまっている場合もあるため、目的と手段の整理など、小規模事業者に寄り添ってサポートする必要がある。
- ・ わかりやすくなじみやすい、やさしい D X 推進をお願いしたい。
- ・ 可能なら、中小企業というひとくくりの表現ではなく、例えば「中小・小規模事業者」や「中小企業・小規模事業者」という主語が盛り込まれると、なおありがたい。

【伊藤広行委員 一宮市総務部情報システム課長】

- ・ 行政サービスの維持・向上には、デジタルを活用した業務変革の確実かつ着実な推進と、それを担う人材の育成・確保が必須。
- ・ 自治体規模の違いによる取組の差や、課題の性質の違いがあることを実感している。人材育成の支援については、意識の醸成だけではなく、課題解決のための伴走型支援など、県内自治体のそれぞれの課題解決につながる内容を充実していただけると良い。
- ・ D X の推進においては、『これをすれば成功する』という確定的な取組はないが、デジタルをキーとした業務変革や意識改革に取り組むことで、より質の高い行政サービスの提供につながる。

【入部百合絵委員 愛知県立大学情報科学部教授】

- ・ D X の活用推進の評価方法について、今まではどう使うかという点に焦点を置いていたと思うが、実行して改善して評価するところも、次期プランでは盛り込む必要があるのではないかな。
- ・ 2022 年頃に発足した防災 D X 官民共創協議会が発足し、防災のデジタル化推進に必要と認められる事項や、マイナンバーカードを活用した防災対策も検討されている。愛知県も委員として加入しているので、そこで議論された内容を「取組の方向性」に記載できるとよいと感じる。
- ・ 5 年後を見据えたプランとして、ペーパーレス化の推進を「取組の方向性」に記載することに少し違和感がある。電子化した後、そのデータをどう共有して活かしていくのかを目指すのが今後 5 年間になると考えるため、ペーパーレス化を進めた先を記載いただくとよいと感じる。
- ・ これまでの課題の次期プランへの反映状況や、愛知県らしさの部分を示すことでさらに良いものになると思う。

【浦田真由委員 名古屋大学大学院情報学研究科准教授】

- ・ 地域DXには自治体DXと地域社会DXの2つの取組があり、課題と柱を両方の視点で整理されている点は良いと感じる。
- ・ デジタルは目的ではなくて手段であるといったところが大事になってくる。例えば今日の有識者会議はハイブリッドでの開催だが、今回のように意見交換する場合は、対面で議論した方がやりやすい。プランの視点であるデジタルファーストについても、デジタルを使うことが目的と誤解されることのないように、プラン上でDXの位置づけを明確にすると良いのではないかな。
- ・ あいち行革プラン2025などと整合性を持って指標等を設定するなど、一貫して進めていただき、新たな指標を設ける場合にはよく検討していただきたい。
- ・ 全体として現行プランの取組の継続という印象。例えばキャッチフレーズなどで次期プランの新しさや思いを表現できると良い。

【白松俊委員 名古屋工業大学情報工学類教授】

- ・ シビックテックコミュニティとの連携については、人材育成だけではなく、2つ目の柱である「地域社会の課題の解決」の取組にも関係するものである。
- ・ デジタルファーストについて、デジタルが目的である、と誤解されないような工夫が必要。
- ・ 技術トレンドの整合性について、愛知県は2023年度に「生成AIの利用に関するガイドライン」を策定しているが、クラウド環境ではなくローカル環境で生成AIを動かして情報を処理することもできるようになっており、当時とプライバシーや機密情報の扱いがだいぶ変わってきているため、今後考慮していく必要があると考える。
- ・ 地域課題について、いくつか分類が示されているが、どんな地域課題にフォーカスするべきかという意見を集めるために、いわゆるブロードリスニングのような技術を活用するとよいのではないかな。

【白山奈津美委員 ソフトバンク株式会社 Axross 事業部担当課長】

- ・ どのようなデジタル技術を活用していくのか、組織横断での一貫性確保という観点からも、デジタルの活用戦略を策定するのが良いのではないかな。
- ・ 人材育成に関して、民間企業の先端人材やスタートアップとの協働による越境学習なども有用なので組み込んでどうか。
- ・ 評価方法について、施策効果や進捗状況を視覚化することで、より伝わりやすく、納得性も高まると考える。
- ・ ペーパーレスについては5年間で実施するのではなく短期目標としてその先に何があるのか考える、短期では難しい産業イノベーションのよ

うなものは中期に据えるなど、短期、中期、長期という視点も加えられれば、より内容が濃くなると感じる。

【和田耕一郎委員 中部経済連合会企画部次長】

- ・ デジタルデバイドへの配慮もしつつ、デジタルを使わない人が損をする設計ではなく、使う人が得をする設計を進めてほしい。
- ・ デジタルファーストを促すという観点で、行動科学の知見を含めたナッジを活用し、強制的でなく自然な形でオンラインを選びたくなるような施策の展開もいただけるとよいのではないか。
- ・ I T・デジタル系の第三次産業の集積はぜひ進めていただきたい。モノづくり産業等と繋がっていくことで、地域産業の進化に資すると考える。
- ・ 産業を支える人材育成に関して、デジタル化の流れは不可逆であり、現在も経済産業局や労働局で様々な取組をしていただいているが、今後も継続して実施してほしい。